

阪神・淡路大震災から25年

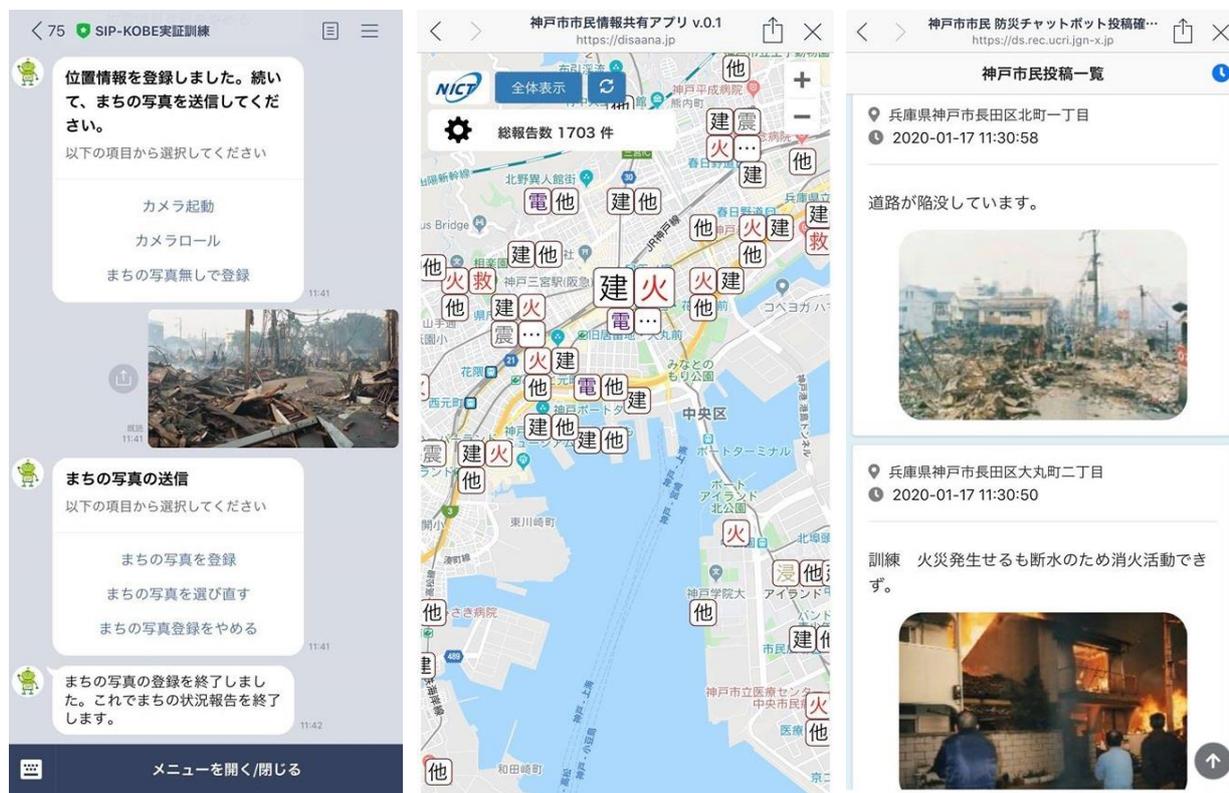
神戸市で全国初となる市民参加型の「LINEを用いた情報共有実証訓練」を実施

AI防災協議会(理事長:LINE株式会社 江口清貴)は、阪神・淡路大震災から25年となる2020年1月17日に、神戸市が開催した「神戸防災のつどい 2020*1」において、市民の皆様に参加いただき「LINEを用いた情報共有実証訓練」を実施しました。

この訓練は、AI防災協議会が社会実装を目指して開発しているSOCDA*2を実装した「SIP-KOBE 実証訓練」LINE公式アカウント*3を用いた市民参加型の訓練で、一般市民を対象とした訓練は全国で初めてとなります。

訓練では、大地震が発生したことを想定し、SOCDA*2が「SIP-KOBE 実証訓練」のアカウントの登録者約1万人に対して、「【訓練】15時45分、神戸市で大きな余震が発生しました。ご自身の安全が十分に確保された状態で、可能であれば「まちの状況」を送ってください。」と呼びかけました。そして、通知を受けた会場内外の参加者から16時まで計1292件の状況報告が寄せられました。寄せられた状況報告は、AIが整理・集約して地図上に表示し、アカウントの登録者に向けて即時に共有されました。

AI防災協議会では、今回の神戸市における訓練の結果を検証した上で、社会実装の実現に向けSOCDA*2のブラッシュアップを図ってまいります。



「SIP-KOBE 実証訓練」LINE公式アカウント



会場での実証訓練の様子

<参考>

*1 「神戸防災のつどい 2020」について

詳細は神戸市ホームページをご参照ください

<https://www.city.kobe.lg.jp/a95474/705067468895.html>

*2 SOCDA:「対話型災害情報流通基盤」。通称 SOCDA = SOCIAL-dynamics observation and victims support Dialogue Agent platform for disaster management

国民一人ひとりの避難と災害対応機関の意思決定を支援するチャットボット。

NIED、NICT、WNI が、LINE の協力を得て、研究開発を実施している。

内閣府総合科学技術・イノベーション会議が主導する戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)第2期「国家レジリエンス(防災・減災)の強化」のテーマI「避難・緊急活動支援統合システムの研究開発」(研究責任者: NIED 臼田裕一郎)のサブテーマ1-3「対話型災害情報流通基盤の研究開発」に位置づけるもの。

*3 「SIP-KOBE 実証訓練」LINE 公式アカウントについて

詳細は AI 防災協議会プレスリリースをご参照ください

<https://caidr.jp/data/2019-08-29press.pdf>